

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 大学院大学実習費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail : c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,600千円 (前年度予算額： 3,600千円)

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | |
|-----|-------|---------|---------|-----------|-------|-------|-------|-----|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 産 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 |
| 前年度 | 3,600 | 0 | 0 | 3,600 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 3,600 | 0 | 0 | 3,584 | 0 | 0 | 0 | 16 |
| 決定額 | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

IAMASでの教育・研究活動の現場を広く公開する。また、実習でそのために必要な表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図ることを目的に実施。

例年、IAMAS受験者の中には、オープンハウス及び卒業制作展に参加し、その表現者としてのあり方や技能の高さに向学心や憧れを持つ人が多数おり、学生募集にも寄与している。引き続きIAMASの教育や研究成果を学外に紹介し、本学の教育・研究内容を県内外の企業や地域住民、受験希望者へPRしていく。

(2) 事業内容

- ・地域開放事業（オープンハウスの開催（例年7～8月頃））
- ・成果発表事業（卒業制作展の開催（例年2月頃）、プロジェクト研究の紹介等）
- ・実習（消耗品購入等）

(3) 県負担・補助率の考え方

本学の研究成果を、広く外部に発表するなど、教育課程上必須な事業を行っており、県負担が必要である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|--------------|-------|--------------------------|
| 報償費 | 440 | オープンハウス・卒業制作展講師 |
| 費用弁償 | 152 | オープンハウス・卒業制作展講師 |
| 業務旅費 | 50 | 卒業制作展・実習関係旅費 |
| 消耗品費 | 565 | オープンハウス・卒業制作展・実習関係消耗品購入費 |
| 印刷製本費 | 290 | チラシ、パンフレット、ポスター、封筒等 |
| 役務費 | 97 | 発送費 |
| 保険料 | 21 | 来場者傷害保険 |
| 委託料 | 1,039 | 卒業制作展会場設営業務委託費 |
| 使用料及び 賃借料 | 946 | 卒業制作展会場借り上げ料 |
| 合計 | 3,600 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

後年度においても同程度の予算計上を予定。

事業評価調書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

実習で表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図り、オープンハウスや卒業制作展を通して、IAMASでの教育・研究活動を広く公開することにより、本学への受験者数の増加を図り、優秀な人材を確保する。また、就職支援及び研究活動を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (H26) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 | 達成率 |
|---------------------|----------------|------------|------------|------------|-----------|-----|
| ①オープンハウス来場者数と進学相談者数 | 222 43 | 297 33 | 300 50 | 300 50 | 300 50 | 99% |
| ②卒業制作展 来場者数 | 1262 | 672 | 1400 | 1400 | 1400 | 48% |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|---|
| 令和5年度 | オープンハウスは、従来どおり開催し本学教員や学生の取り組む研究への理解が深まり、受験者数の確保につながった。卒業制作展は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年の半分程度の来場者数となつたが、学生の卒業制作に加えて、プロジェクト研究の発表等、本学の研究活動の内容の発表も行い、企業等に対して本学の研究内容をアピールすることができた。 |
| 令和6年度 | オープンハウス、従来どおり開催し多くの方に来場してもらうことができた。本学教員や学生の取り組む研究への理解が深まったほか、対面での進学相談会等もあり受験者数の確保につながった。卒業制作展は、学生の卒業制作に加えて、プロジェクト研究の発表等、本学の研究活動の内容の発表も行い、企業等に対して本学の研究内容をアピールすることができた。 |
| | 指標① 目標：300 実績： 297 達成率： 99% |
| 令和7年度 | 令和9年度当初予算にて追加 |
| | 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|-----------|--|
| (評価) 2 | 実習で表現者としての多様で高度な技術の習得と能力の伸長を図り、オープンハウスや卒業制作展を通して、IAMASでの研究活動、地域との連携活動、学生の活動等を幅広く社会に公開することにより、企業や地域との連携強化や受験生の増加が期待される。 |
| (評価) 2 | オープンハウスや卒業制作展の進学相談会参加者の中から、毎年多数の入学志願者が出ていている。 |
| (評価) 1 | オープンハウス及び卒業制作展実施にあたり、必要機材の在庫をチェックするなど、経費を必要最小限に抑えている。 |

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

少子化が進む中でどこの大学も受験生の確保に頭を悩ませている。この中で受験者数の増加と受験者の質の向上は、本学における研究内容の更なる発展にとって欠くことができない課題である。多様で高度な技術の習得を目指した実習及び2つの行事を通して、本学のメリットであるメディア表現分野の先進研究施設として、また、ソフトピア地区の地の利を生かした産学連携を生かした研究成果を大きくアピールし、学生や関係者、地域に理解を深めたい。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

学生の表現者としての多様な技術の獲得及び能力の向上を目指すとともに、IAMASの研究活動、地域との連携活動、学生の活動等を今まで以上に広く社会に公開する。企業や地域との連携を強化し、受験生の増加を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|----------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 | 【○○課】 |
| 組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など | |